

特集：ネズミ対策

巻頭言

今月、半期決算説明会と虫供養祭を実施しました。この順番で書くとともに虫供養祭を実施したようですが、虫供養祭がメインで30年続いています。20年ほど前までは、供養祭後ボーリング大会やソフトボール大会を行い、そして懇親会で終了と云った流れでした。

マルマの提供するサービスの多くは生き物を殺生することが仕事の基本となっています。基本のゴキブリ・ネズミの駆除防除から、小型の害獣（タヌキ、ハクビシン、コウモリ他）・害鳥（ハト、カラス他）駆除防除や微生物管理までほとんどの仕事で生物を殺生します。ですから1年に一回は生き物の命に思いを馳せ、感謝と共に成仏できるよう供養しています。供養祭ですが、生き物を殺生することを仕事としている業界ではよく行われており、マルマも属しているシロアリ業界も高野山にシロアリ供養塔があり、年に一回供養祭を行っています。

こんな時期に、奄美大島で外来種のマングースを根絶したとのニュースを耳にしました。奄美大島に生息するハブの駆除を目的に1979年に持ち込まれたが、結果としてハブは駆除できずマングースが増殖してしまい、奄美大島固有の小動物を加害するようになった為、環境省が駆除を実施し、約20年かけて今年根絶宣言を行ったと云う内容です。このニュースがさらっと流され、「駆除できてよかったね」で終わっていますが、国や行政は、ハブが駆除できなかった失敗理由をはっきりさせないまま、36億円もの税金を使って処理をしているのです。さらに環境省の発表には相当な違和感があり、「世界に誇れる事業だ」などと感覚を疑う発表をしています。結局、駆除できなかった理由が、マングースは昼行性でハブは夜行性の為活動時が違ったとか、もともとマングースは昆虫や無脊椎動物が主食でハブなどはよほどのことが無い限り食べないとかで、本当にこれが理由ですかと聞き返してしまいそうなお粗末な内容です。準備もなく自分（国や行政）でやって、失敗し、反省もなく、問題になったので税金を使って尻拭いをし、最後は自画自賛して問題になりそうなことを隠した、と云ったことでしょうか。勝手に連れていかれ、拳句に根絶させられたマングースにとっては堪ったものではありません。3万匹以上が駆除されたそうです。命を何だと思っているのでしょうか。

国や行政は、絶対に自分たちの失敗を認めません。失敗した理由や反省が無ければ、また同じことを繰り返します。日本の将来がほんとに心配です。

駆除されたマングースも一緒に供養できればと思います。

（雅）

ネズミ対策

今年の5月に食パンに子供のネズミが混入するという、ショッキングな異物混入事故が起きました。その製パン工場では、工場外部から侵入したクマネズミがパン生地に入ると推定されています。また、6月には別のメーカーで焼き菓子にネズミの糞が混入した事故も起こっています。ネズミやその糞の混入はメーカーの信頼やブランドイメージを地に落とし、企業にとって致命的にもなり得ます。今回のエムテックインフォメーションでは、ネズミ対策についてご紹介致します。

ネズミの種類と生態

ビルや飲食店、工場などの建物に侵入する種類は、ドブネズミ、クマネズミ、ハツカネズミの3種で家ネズミとも呼ばれます。3種はそれぞれ体サイズや生態・特徴が異なります。

	ドブネズミ	クマネズミ	ハツカネズミ
写真			
体サイズ	体長 約 22～26cm 尾長 約 18～24cm	体長 約 18～20cm 尾長 約 20～22cm	体長 約 6～9cm 尾長 約 5～9cm
生態特徴	最も 大型な種類 。地下街や下水道、川辺や海辺、ゴミ処分場などに多く生息する。木登りなどの垂直方向の移動は苦手とするが、 泳ぎが得意で下水管内を泳いで建物に侵入可能 。魚や肉などの動物質を好み、獰猛。	中型の種類 。ビルや飲食店などの天井裏に生息する。垂直方向の移動が得意で、パイプを登ることや電線を渡ることが可能。都心部のビルでは最も被害が多い。 警戒心が強く、学習能力も高いため、駆除が最も難しい 。	最も 小型な種類 。屋外の田畑や草地、雑木林などに多く生息する。穀物倉庫によく出没するほか、人家やビルにも侵入する。秋から冬にかけて屋内に侵入しやすい。学習能力が他2種より劣り、 トラップなどで駆除しやすい 。

ネズミによる被害

被害の種類
• 食品への加害や異物混入
• 建築物や設備の破損
• 病原体（ウイルス、細菌、ダニ、ノミ）の媒介
• 糞尿による汚損
• 臭いや音による精神的被害
• 信用被害（イメージダウン）



食品への加害



ケーブル被害



建物（壁）の被害

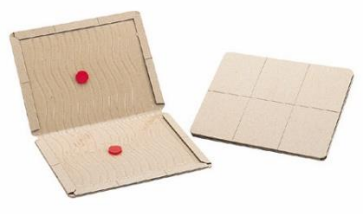


イエダニ（刺咬性）

ネズミ対策

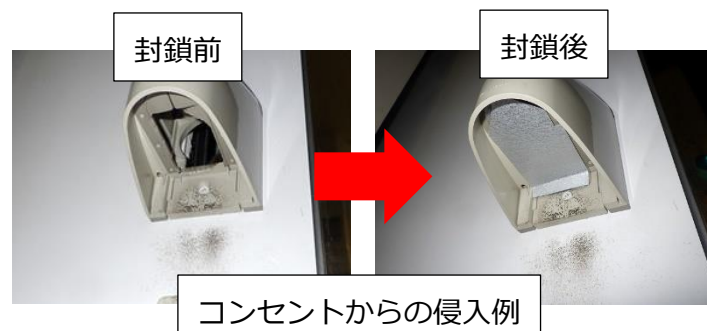
駆除

駆除方法には、トラップによる捕殺駆除と殺鼠剤による駆除があり、それぞれ利点と欠点がありますので複数の方法を組み合わせて駆除することがより効果的です。

	粘着トラップ	圧殺トラップ	殺鼠剤
仕組み・効果	 とりもち式の粘着剤でネズミを捕獲するトラップ。最もスタンダードな駆除方法。	 強力なバネでネズミを圧殺するトラップ。危険なため、粘着トラップほどは使用されていない。	 ネズミ用の毒餌。数日以上喫食を継続させると、徐々に弱り、やがて致死する。 ※写真は弊社オリジナル殺鼠剤。
利点	(1) 駆除後、そのまま廃棄可能 (2) ネズミに付着したダニなどの寄生生物も捕獲可能	(1) 捕獲率が粘着トラップよりも高い	(1) ネズミに警戒されにくく、徐々に駆除可能 (2) 粘着トラップと併用することで駆除効果が高まる
欠点	(1) 学習能力の高い個体は、捕まりにくい (2) 水濡れに弱い	(1) 指を挟むと大変危険 (2) 捕殺時に周囲が汚れる (3) ダニなどが捕獲不可能	(1) 死骸を回収できない場合がある

侵入口の封鎖

侵入したネズミを駆除すると共に、再発を防止するために天井や壁の穴、配管の隙間などの侵入口を封鎖することが重要です。



清掃・環境整備

室内を清掃し、環境を整備することで、ネズミの侵入や定着を予防できます。

- ・ 毎日清掃しゴミを室内に残さない（排水溝や厨機下などの清掃）
- ・ 不要物は撤去する（長期保管している荷物やダンボールなどの整理整頓）



ネズミ対策について、弊社までお問い合わせ下さい。

害虫獣紹介

ニクバエ類

昆虫は卵から孵化し幼虫となり、成虫に変態するイメージを持つ方が多いと思います。しかし、中には雌の胎内で卵を孵化させて幼虫（ウジ虫）を食品に直接産みつける卵胎生の昆虫もいます。今回の M-TEC インフォメーションでは、その卵胎生昆虫の一種である、ニクバエ類を紹介いたします。

生態

ニクバエ類は大型のハエ目の仲間です。多くの種が日本全域に分布しています。成虫の体長は約 8～14mm で、代表種のセンチニクバエでは体色が灰色で胸背に 3 本の黒い縦線があり、腹部には市松模様が見られます。成虫は 4～10 月頃に発生し、幼虫の餌となる動物質に出産するため、主に動物死体や動物糞、畜舎、汲み取り式便所が発生源となります。卵胎生で 1 齢幼虫を出産するため、卵生のハエ類より発育が速く、幼虫期間が約 6～8 日、蛹の期間が約 10～12 日で成虫となります。



図 センチニクバエ
Boettcherisca peregrina
(引用：日本ペストコントロール協会)

被害

見た目が不快感を与える事は勿論ですが、飲食店や食品工場では食品の臭いに誘引された個体が成虫、幼虫共に異物混入の原因になります。室内に侵入し放置されている食品の上を歩き回り、出産された食品を誤って食べてしまうと、消化器ハエ症の原因となり腹痛、嘔吐、下痢を起こすことがあります。また、サルモネラ菌や赤痢菌、腸管出血性大腸菌や各種の寄生虫を伝播することが知られています。

対策

ニクバエ類は動物性の食品や残渣の臭いに反応します。食品は臭いが漏れないように保管し、ゴミ箱には蓋をして、長期間置かずに処分する事が必要です。多数の個体が見られる場合、近くに発生源がある可能性があります。付近に動物の糞や残渣が無いか確認し、発生源があれば除去しましょう。扉や窓に隙間を作らず、必要以上に開放しない事も大切です。また、光に誘引される性質を持つため、ライトトラップでの捕殺も有効です。

一般家庭では食品に出産されないように食品を放置しない、または容器を用いて密封保管することが有効となります。

食中毒情報

今月は、件数としては黄色ブドウ球菌、患者数としてはノロウイルスを原因とした食中毒が最も多く発生していました。黄色ブドウ球菌は人の手指から食品に移り、食品中で増殖する時に毒素を出して食中毒の原因になります。手洗い、食品の低温保管で予防できるため、管理できているか確認をお願いします。

先月は、うなぎ弁当で黄色ブドウ球菌を原因とした大規模食中毒が発生していましたが、今月はノロウイルスを原因として患者数 600 人以上の食中毒が発生していました。調理に使用していた湧き水がノロウイルスに汚染されていたことが原因と考えられています。食材や人由来だけでなく、使用している水が原因で食中毒が発生することがあります。特に、今回のような湧き水や井戸水は土壌由来の汚染による影響を受けやすいので、日常的に水質のチェックを怠らないように管理をお願いします。

全国食中毒発生状況 (8/15～9/13 新聞発表分等)

原因物質	件数	患者数
黄色ブドウ球菌	8	154
カンピロバクター	6	40
アニサキス	4	46
ノロウイルス	2	690
不明・その他	10	203

『ひとつ、ふたつ・・・快適環境を生み出します』

MARUMA M/TEC
株式会社 マルマ エムテック衛生検査所
メールアドレス：info@maruma-ec.co.jp

本 社	／	〒430-0807 静岡県浜松市中央区佐藤 2-5-11	名古屋支店	／	〒496-0027 愛知県津島市津島北新開 234-2
東京支店	／	〒194-0005 東京都町田市南町田 2-15-14	大阪支店	／	〒555-0032 大阪府大阪市西淀川区大和田 3-5-6
静岡支店	／	〒422-8046 静岡県静岡市駿河区中島 960-1	福岡支店	／	〒816-0922 福岡県大野城市山田 2-18-53-B103
岡崎支店	／	〒444-0802 愛知県岡崎市美合町字北屋敷 59-3-101			